

富士山の火山活動解説資料（令和8年2月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1）
萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約18km）による観測では、噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況（図2、図3）
火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図4、図5）
地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 富士山 山頂部の状況（2月27日 萩原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年3月分）は令和8年4月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政区・海岸線）』を使用しています。

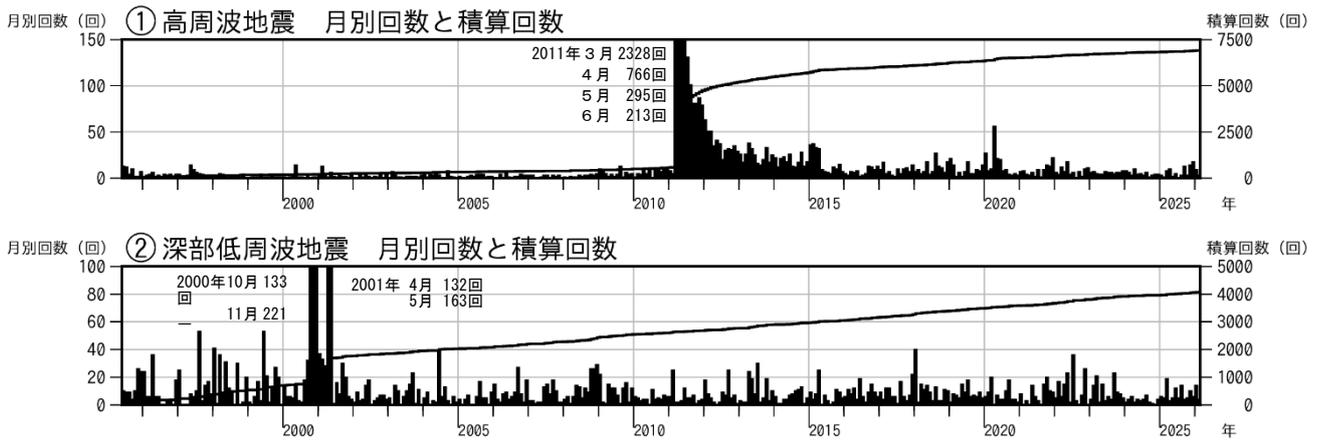


図2 富士山 月別地震回数（1995年6月1日～2026年2月28日）

① 高周波地震の計数基準

2011年3月22日まで 富士山頂上下動振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 3.0秒以内

2011年3月23日～（防）富士第5上下動振幅 $0.3 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 3.0秒以内

ただし、欠測等の場合は代替点（富士山頂、太郎坊、（防）富士第6）により計数しています。

（防）は、国立研究開発法人防災科学技術研究所 を示します。

② 深部低周波地震の計数基準

広域地震観測網により震源決定された地震のうち、①と同じ基準を満たす地震。

- ・ 2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発になりました。2016年以降は、以前の状態までには戻ってはいないものの、概ね低調に経過しています。

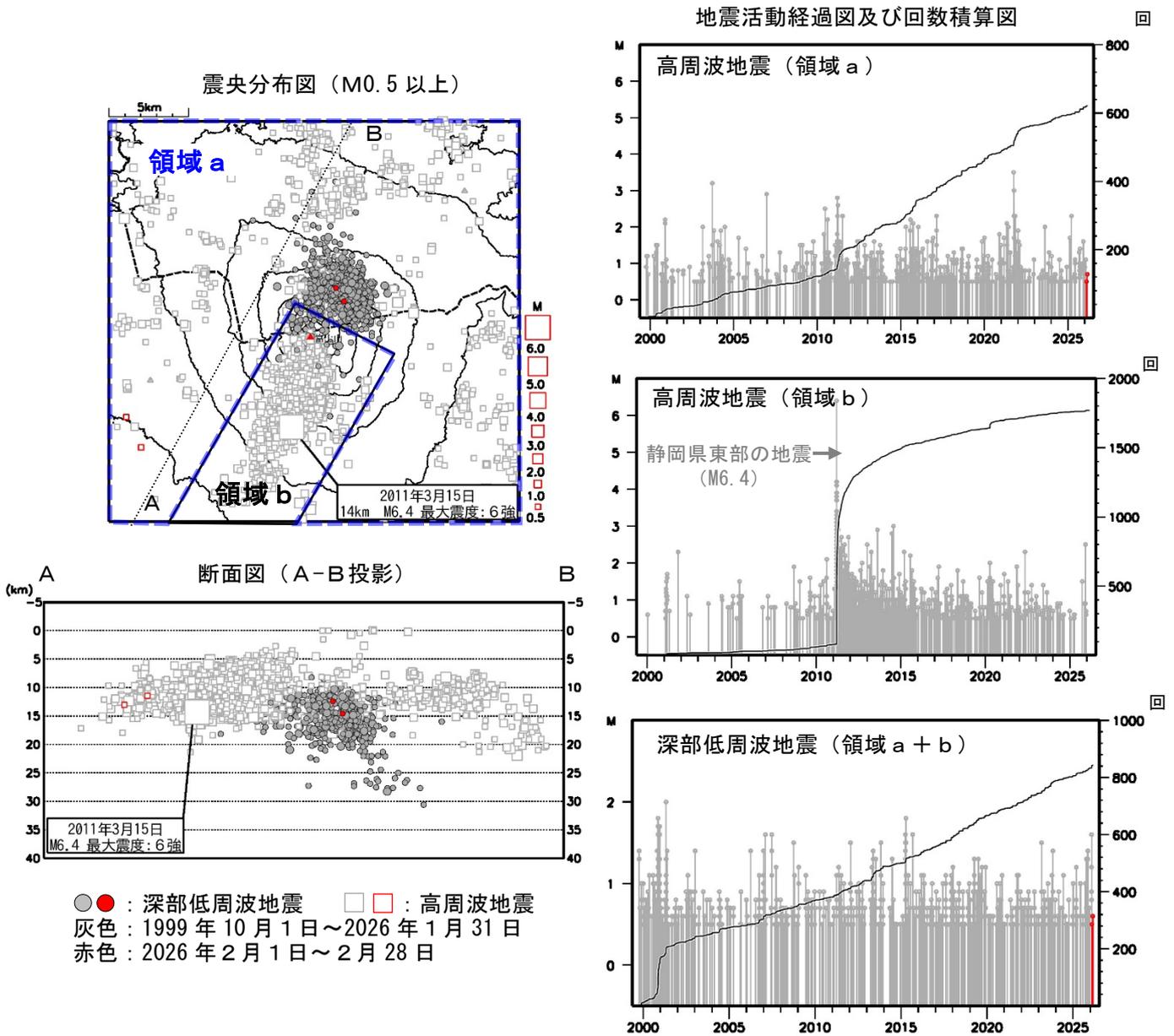


図3 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動(1999年10月1日～2026年2月28日)
 広域地震観測網により震源決定したもの (M0.5以上) で、深さは全て海面以下として決定しています。
 M (マグニチュード) は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

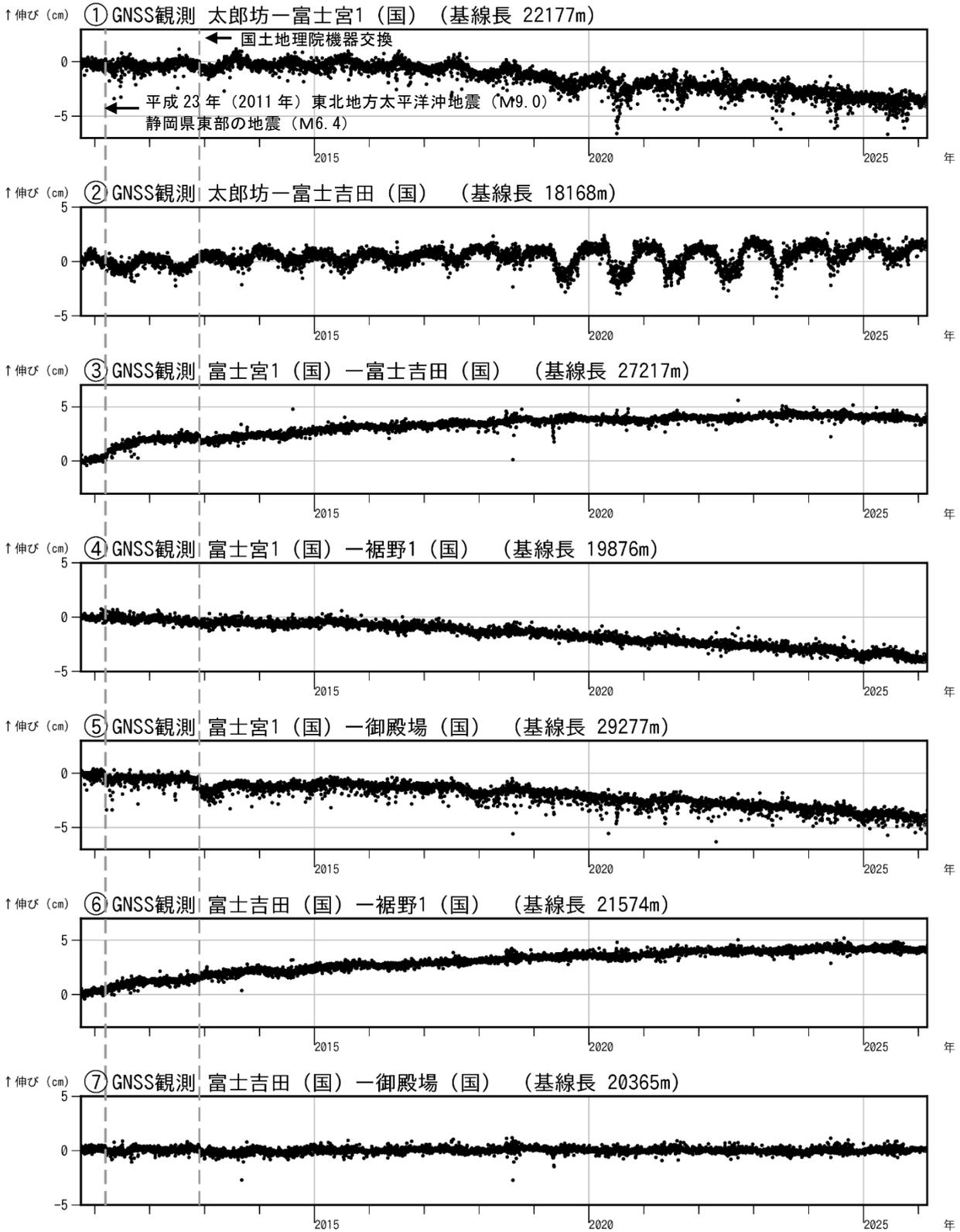
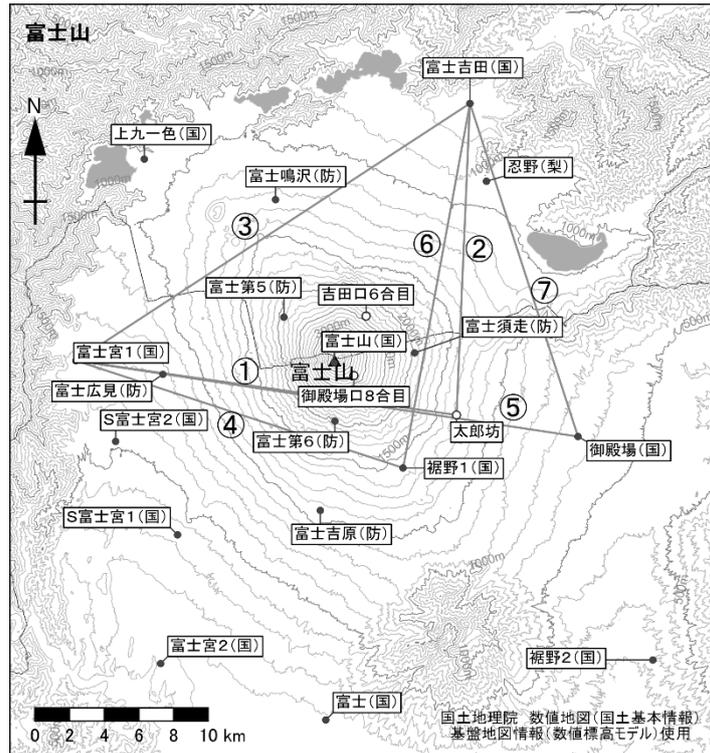


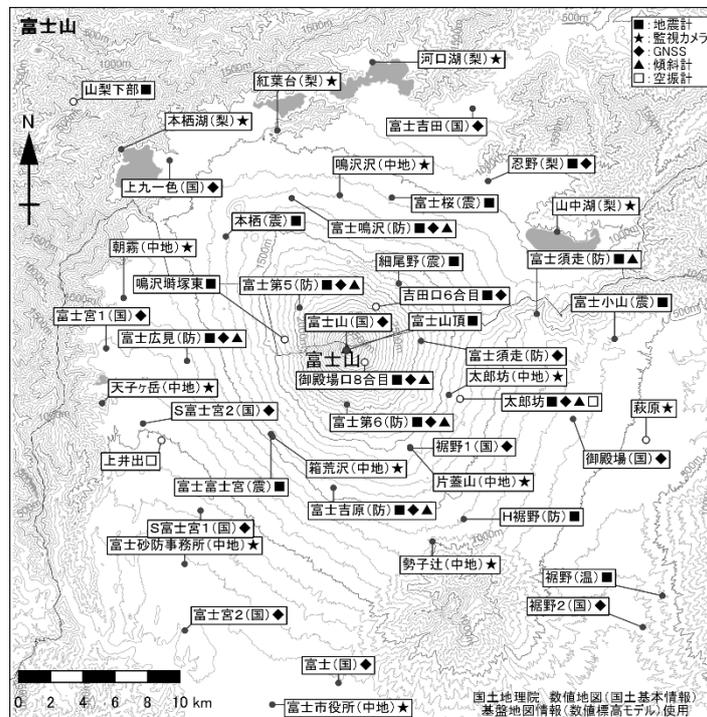
図4 富士山 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月1日~2026年2月28日)
 (国): 国土地理院
 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震(M6.4)によるステップ状の変化を補正しています。
 ①~⑦は図5のGNSS基線①~⑦に対応しています。

・火山活動によるとみられる変動は認められません。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の期間の観測点位置を示しています。
 (国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(梨):山梨県

図5 富士山 GNSS 観測点配置図
 GNSS 基線①～⑦は図4の①～⑦に対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の期間の観測点位置を示しています。
 (国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(震):東京大学地震研究所、
 (中地):中部地方整備局、(梨):山梨県

図6 富士山 観測点配置図